

2025年3月8日・9日 中東欧日本語教育研修会 報告

報告者:池田玲子



講演タイトル

「協働学習再考 ―日本語教育の
パラダイムシフトと協働学習
(ピア・ラーニング)」

ワークショップ

「中東欧の日本語教育の実践と
研究のために」

3月8日と9日に、ハンガリーの国際交流基金ブダベスト日本文化センターの図書館で開催された「中東欧日本語教師研修会」において、池田玲子(昭和女子大学)が講演と教師研修(ワークショップ)講師を勤めました。

第1日目の8日は、ブダベスト日本文化センターを会場として、中東欧11か国から現職日本語教師21名の会場参加とオンライン参加者約70名も参加しました。本研修の目標として池田が掲げたのは、「中東欧の日本語教師が日本語教育の協働学習を理解し、協働学習(ピア・ラーニング)の授業デザインに取り組むこと。また、この実践を継続し、発展させていくための教師の学びの場づくりに向けて、中東欧日本語教師のネットワークづくりをはじめること」でした。会場に参加した日本語教師のみなさんは熱心に講演を聞き、後半のワークショップにも積極的に参加されました。内容は日本語教育の協働学習についての概要(定義、実践と研究、理論背景、実践事例)でした。ワークショップでは、協働学習の導入活動や、これまでの授業を活動型に無理なく変えていく方法の提案、協働学習の総合型活動としての「ケース学習」の体験を通して、今後の自分の授業デザインにどのように活かそうかについて話し合ってもらいました。

第1日目の午後と第2日めは、参加教師から自身の実践報告や実践研究の発表がありました。それぞれの教育環境に即した日本語教育のあり方をどのように工夫さ

れ、それがどのような成果や意味をもたらしたかについて、たいへん興味深い発表ばかりでした。

講師として日本から参加した私にとっては、中東欧という遠い国々で、日本語教育がどのように実践されているのかを初めて生の声で知ることができる貴重な機会となりました。また、当日参加された各国の日本語教師たちも近隣の国々での実践内容を共有することができたことで、今後の自分自身の実践を改善するための貴重な情報共有の場となったことと思います。



第2日（3月9日）は、各国からこの研修に参加された日本語教師が、自身の実践報告、研究発表をしました。その後、各実践、研究報告について、池田から簡単なコメントと、研修の総括を行いました。

この研修の後、うれしいことに、さっそくここハンガリーにおいて協働実践研究会の新しい海外支部が設立されることになりました。「ハンガリー協働実践研究会支部」です。設立にあたり、ハンガリーブダペストにあるエトヴェシュ・ロラード大学の日本語教師、「内川かずみ先生」、「飯田規子先生」のおふたりが支部設立をお引き受けくださることになりました。協働実践研究会としては、最初の欧州支部となります。今回、池田がブダペストへ向うことになる約1年前の2024年4月6日には、協働実践研究会の共同代表：館岡洋子氏（早稲田大学大学院教授）が「国際交流基金 欧州拠点 共催オンライン日本語教育研修会 2024」にて「日本語教師の専門性と主体性—対話と省察から考える—」というタイトルで研修講師を勤めました。また、翌4月7日には、「2024 ハンガリー日本語教師研修」にて同テーマでワークショップを行いました。したがって、今回の池田のハンガリー行きでは、内川先生、飯田先生への二度目の協働実践研究会からのアプローチとなりました。

お二人の先生方には、日々のご多忙な業務に加えて、ぜひ中東欧の日本語教師に日本語教育の実践研究を支えることもお願いできないかという意味で、ハンガリー拠点設立のご依頼をしてきました。

なお、この支部設立にあたっては、ハンガリー国際交流基金ブダペスト日本文化センターの藤居真美所長、日本語教育アドバイザーの八嶋康裕さん他、ハンガリーJFスタッフの方々に温かいご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後、この支部の存在が日本教育の協働学習(ピア・ラーニング)実践研究の拠点として重要な貢献をしていくことを期待したいです。

ハンガリー（ブダペスト） エトヴェシュ・ロラード大学 ELTE



2025年3月22日

池田玲子(昭和女子大学大学院特命教授)